（様式１）
（様式１）

ひょうご学力向上実践研究事業　事業計画書（作成年月日：7 年 4 月 25 日）

学校名	兵庫県立明石南高等学校	校長名	織邊　剛

【作成の注意】　※　各欄の行数は増やしてページ数が増えてもよい。　※　予算計画書と整合を図ること。

希望する研究テーマ

テーマ	生徒の主体性を高め、思考を深めるための組織的な授業改善

１　学力向上のための３年間の研究目標

・生徒が主体的に思考を深めていくための具体的な方法開発
・「明南スキル」の伸長を生徒・教員が共に主体的に目指すような体制づくり

２　研究のロードマップ（取組概要）

Ｒ６　１年目	Ｒ７　２年目	Ｒ８　最終年度
・「明南スキル」ルーブリックによる生徒の自己評価 （5・7・10・12・1・3 月実施） ・「明南スキル」に沿った教科横断的な授業研究会 （５月：研究授業・公開授業の設定 ６月：公開授業月間 ９月：研究授業事前検討会 10～11 月：研究授業実施 11 月：研究授業事後検討会 ２月：次年度に向けた検討会） ・「明南スキル」の練り直し （総合的な探究の時間）	・「明南スキル」ルーブリックによる生徒の自己評価 ・「明南スキル」に沿った教科横断的な授業研究会 ・「明南スキル」によって産業社会と人間、総合的な探究の時間、課題研究を評価する指標づくり	・「明南スキル」ルーブリックによる生徒の自己評価 ・「明南スキル」に沿った教科横断的な授業研究会 ・「明南スキル」に基づいて各教科の観点別評価を実施

３－１　生徒の学びの現状（令和７年度の現状について記述）

現状

①「明南スキル」について
　ルーブリックによる学期に２度、年６度の自己評価を継続している。昨年度３年次、年度当初（令和５年４月）から最後の自己評価（令和６年１月）までの主体性に関わる項目（「自立する」）のレベルⅢ以上の上昇率は１１％であった（６０％→７１％）。また、総合的な探究の時間において、明南スキルの自己評価する際の適切な基準についてグループで検討し、ポスターセッションを行った。また、その中で自ら考案した環境美化活動を、本校内の学校行事での独自実施を皮切りに、ひいては近隣小学校と連携にまで教員の力をほとんど借りずに成し遂げるような生徒も現れた。

②研究授業を通して
　昨年度は「生徒の主体性を引き出す」をテーマに、５科目（言語文化、保健、生物、情報Ⅰ、世界史探究）の研究授業を行った。どの授業も生徒が主体となって授業を前に進めていくよう工夫されたものであったが、その際に鍵となるツールがやはりＩＣＴ機器であった。一人一台端末環境が４年目に入り、生徒のタブレット活用も板についてきた感があるが、調べ学習や提出、資料の受領などが主であり、まだ「上手く活用している」とは言い難い。

　以上より、研究授業を通して主体的に学ぶことへの志向が生まれ、生徒の学習活動にもいくらかの影響が見られる。ただ、①で紹介した生徒のように、本来、本校生徒の主体性は一層創造的であり、そのポテンシャルを引き出し切れているとは言い難い。これまでの総論的な取り組みから、より各論的な取り組みへフェーズを移行していくことが求められる。

３－２　教員の指導の現状（令和７年度の現状について記述）

現状

昨年度は「生徒の主体性を引き出す」をテーマに研究授業とその事前・事後研修を行った。各教科創意工夫を話し合い、「主体性」という奥の深い概念を本質から紐解きながら、各教科の特性を活かした取り組みをグループで検討した。助言者の池田先生から「自らの学習をマネジメントする」ことが、学習者の主体性を構成する大きな要素のひとつである、という助言を受けつつ、学習者＝生徒が自ら動いて学習へ向かっていくための仕掛け、動機づけ、きっかけづくりを検討した。また事後検討会では改めて学習における「主体性」とは、ということについて問い直し、教科ごと、或いは教員ごとに様々である主体性のどの部分にフォーカスするかを具体化していく必要があるとの助言を受けた。

４　研究取組内容の詳細（現状の課題解決のため実施内容、方法、連携先、成果検証、成果発信方法など）

内容

・「明南スキル」ルーブリックによる生徒の自己評価の継続実施

全年次を対象に、学期に２回ずつ、年間計６回自己評価を行う。今年度はこの実施方法について、新しい方式を導入・試行する。これまで各タイミングで自己評価していたものを、①学期の１回目で目標設定→②学期の２回目で設定した目標にそって自己評価、とし、それを振り返ることのできる個票を発行することにより、ポートフォリオ的な性質を高めるものにしたいと考えている。

・教科横断授業への挑戦

５月に全職員で各科目年間指導計画を比較検討し、６月に他教科の取り組みを具体的に知ることを目的に公開授業を実施し、７月に大学教授による講演会を実施する。それらを踏まえて、生徒の「主体性」を高め、見取る取り組みとして、２学期に研究授業を実施する。２学期始業式終了後には、２学期実施の研究授業及び公開授業の事前検討会を行い、１月に今年度の検証作業と次年度の課題設定を行う。

今年度も継続して「主体性」をテーマに据えるが、より挑戦的な試みとして、今年度は教科横断授業に取り組む。問題解決型の問いを共通のテーマとして教科でペアを組み、教科横断の授業を考案する。

・「明南スキル」の発展

本校の継続的な取り組みである「明南スキル」について、現在の抽象度の高いルーブリックから、より具体的なルーブリックへアップデートを行う。

５　令和７年度の活動計画（校内会議、授業研究会、校内研修、先進校視察等の予定）

活動計画

月日	場所	内容	外部講師等
4月30日	校内会議	今年度事業計画の概略を共有	
5月16日	校内研修	各科目年間指導計画をもとに、教員同士が教科横断的に学び合える時期での各教科研究授業・公開授業の設定	
4月28日	校　内	第１回明南スキル自己評価（生徒）	
6月	校内授業研究	公開授業	
7月7日	校　内	第２回明南スキル自己評価（生徒）	
9月1日	校内研修（授業研究会）	２学期実施のすべての研究授業の事前検討会	岡山大学学術研究院教育学域講師　池田匡史氏
9～11月	校内授業研究	研究授業・公開授業	岡山大学学術研究院教育学域講師　池田匡史氏
10月20日	校　内	第３回明南スキル自己評価（生徒）	
11月28日	校内研修（授業研究会）	２学期実施のすべての研究授業の事後検討会	岡山大学学術研究院教育学域講師　池田匡史氏
12月15日	校　内	第４回明南スキル自己評価（生徒）	
1月8日	校内研修	今年度の検証及び次年度に向けて	
1月19日	校　内	第５回明南スキル自己評価（生徒）	
3月9日	校　内	第６回明南スキル自己評価（生徒）	
3月	校内会議	次年度に向けての検証結果報告	

3月	校内講演会	講演会（主体的に探究に取り組むために）	神戸大学 教授　石川慎一郎氏（予定）

６　**令和７年度末の生徒の到達目標（身につけさせたい資質・能力や数値目標を明確に）**

①「明南スキル」の主体性に関わる項目（「自立する」）のレベルⅢ以上の上昇率（年度当初/年度末比較）１５％以上。
②「明南スキル」について、目標設定を明確に行う。ポートフォリオ的活用に習熟する。
③「生活実態・学習状況調査」において「学校の授業が分かる」と答える生徒の割合を 15%、「次の学習につなげることができる」と答える生徒の割合を 40%にする。
④ICT 機器を創造的に活用して日々の学習に取り組む。

令和７年度末の教員の到達目標

①「明南スキル」の有用性を実感しながら教育活動を行う。
②総合学科として育むべき「主体性」の具体的内容を認識した授業改善に日々取り組むことができる。
③ICT 機器を創造的に活用させる授業の工夫を行うことができる。
④教科横断授業に積極的に取り組む。

令和７年度末に到達する学校の姿

「明南スキル」のポートフォリオ的活用を通して主体的な自己評価を行う。また総合学科明石南高校として育むべき・育まれるべき「主体性」を生徒・教員が共に認識し、問題・課題に日々、教科横断的に取り組んでいく生徒の姿が見られる。

成果